

美しい 県土づくりNEWS



目次

- 2 「いわての川づくりシンポジウム 2009」を開催
- 4 建設企業の育成・活性化を支援
- 6 築川ダム付替国道3号橋が連結
- 8 建設業の新分野参入事例を紹介します
- 9 釜石港のジブクレーンが供用開始(釜石市)
- 10 岩手県I 援隊運動を展開しています

2010年
1月

岩手県 県土整備部
手づくり広報誌 66号
平成22年1月22日発行
編集 県土整備企画室

黄金の國、
いわて。



一般国道 455 号北山バイパス開通により混雑緩和に一定効果！！ ～盛岡市中心部へのアクセスが大幅に改善～

平成 21 年 10 月 26 日の一般国道 455 号北山バイパス全線開通により、現道の混雑が緩和され、市中心部へのアクセスが大幅に改善しました。

バイパスの開通により、現道の交通量は開通前に比べ約4割減少したほか、県営野球場前から北山交番前交差点までの所要時間が約3分、松園方面から国道4号に向かう市道上田深沢線の所要時間も約5分短縮され、渋滞緩和が図られました。



開通した一般国道 455 号北山バイパス

『いわての川づくりシンポジウム 2009』を開催！

河川課

県では、昨年11月13日、盛岡市内で『いわての川づくりシンポジウム 2009』を開催しました。

本シンポジウムは、国土交通省の「中小河川に関する河道計画の技術基準」の策定の参考となった一級河川元町川（葛巻町）などを例に、これまで進めてきた“いわての川づくり”について振り返るとともに、川本来のあり方、川と地域との関わりについて考え、今後のいわての川づくりにつなげていこうとするものです。

いわての川づくりや、川を中心とした住民の方々の地域での様々な活動の様子を紹介したほか、川づくりの技術、地域との協同・連携について改めて考える機会となり、今後の本県の多自然川づくりがより一層促進されることが期待されます。

1 現場指導（一級河川馬淵川水系元町川）

1 講師／九州大学大学院工学研究院教授 (独) 土木研究所自然共生研究センター長	島谷幸宏 氏 萱場祐一 氏
---	------------------

平成18年災一級河川元町川河川等災害関連事業(葛巻町)の現場において、計画段階からアドバイスをいただいたお二人を招き、竣工後の状況を確認しました。

現場では、元町川の現在の状況を踏まえながら、全国的に多自然川づくりの課題となっている事項等について意見交換を行ないました。



【現場指導における島谷教授、萱場センター長との意見交換より】

- 河床の石組みについて
 - ・ 元町川では施工段階で石組みを行っている。一方、宮崎県の山附川（H17 災害関連）は施工段階で石を組んでいないが、自然に石が絡んできている。ただ、水深が浅くなったとの報告もある。
 - ・ ステップアンドプールでは、プールで水面幅が広がる。広がったところで砂が溜まり、生物にとって重要な環境となる。
 - ・ 両河川を比較し、施工段階でステップアンドプールをつくるかつくらないかの検討が必要。
- 護岸について
 - ・ 護岸の明度（明るさ）については規制が必要。（明度が高ければ、明るく構造物の印象が強まってしまう）
 - ・ 護岸を空積み（コンクリートブロックの中詰めを碎石等で充填）にすることでコンクリート量が減り CO2 が半減。
 - ・ 洪水を防ぐためには、河畔林が必要という発想の川づくりに変えたい。

2 基調講演

演題：多自然川づくりの実践
講師：九州大学大学院工学研究院教授 島谷幸宏 氏

これまでの多自然川づくりの変遷、現在検討している多自然川づくりの最新情報など、全国で取り組まれている事例を交えながら講演いただきました。

今回の元町川での河道計画検討が、国土交通省が策定した「中小河川に関する河道計画の技術基準」の参考となったとのことです。



【基調講演より】

○ 護岸について

- ・ 護岸は侵食を防ぐための構造物、河岸は水際と陸域の接する部分。護岸と河岸は分けて考えよう。
- ・ 護岸は急勾配、河岸は緩傾斜。
- ・ 護岸は河岸の背後に引いて設置した方が、流速が抑えられる。川も自由に動ける。
- ・ 護岸の性能（景観、浸透性、覆土等）について、今後の検討課題。

○ 環境の評価（大分県の例）

- ・ 大分県では、魚の調査を統計的に整理し評価。魚を生息場所、産卵場所等の特徴ごとに分類。
- ・ 調査地点の魚の種類の数により、川づくりの課題が見える仕組み。

3 パネルディスカッション

テーマ：川づくりと地域の関わり

パネルディスカッションでは、パネリストの方々から、元町川のほか、宮守川、雪谷川等をはじめ、いわての川づくりについて高い評価をいただきました。

また、中津川、宮守川を中心とした地域での様々な活動の紹介があり、「改めて地域に親しまれる多自然川づくりの原点を感じることができた」などの意見が出され、今後の川づくりにとっても参考となる活発な討論となりました。



コーディネーター

島谷幸宏氏（九州大学大学院工学研究院教授）

パネリスト

萱場祐一氏（（独）土木研究所自然共生研究センター長）

寺井良夫氏（NPO法人もりおか中津川の会理事）

菅原伴耕氏（（農）宮守川上流生産組合理事）

佐藤 悟氏（岩手県県土整備部河川課総括課長）

建設企業の育成・活性化を支援

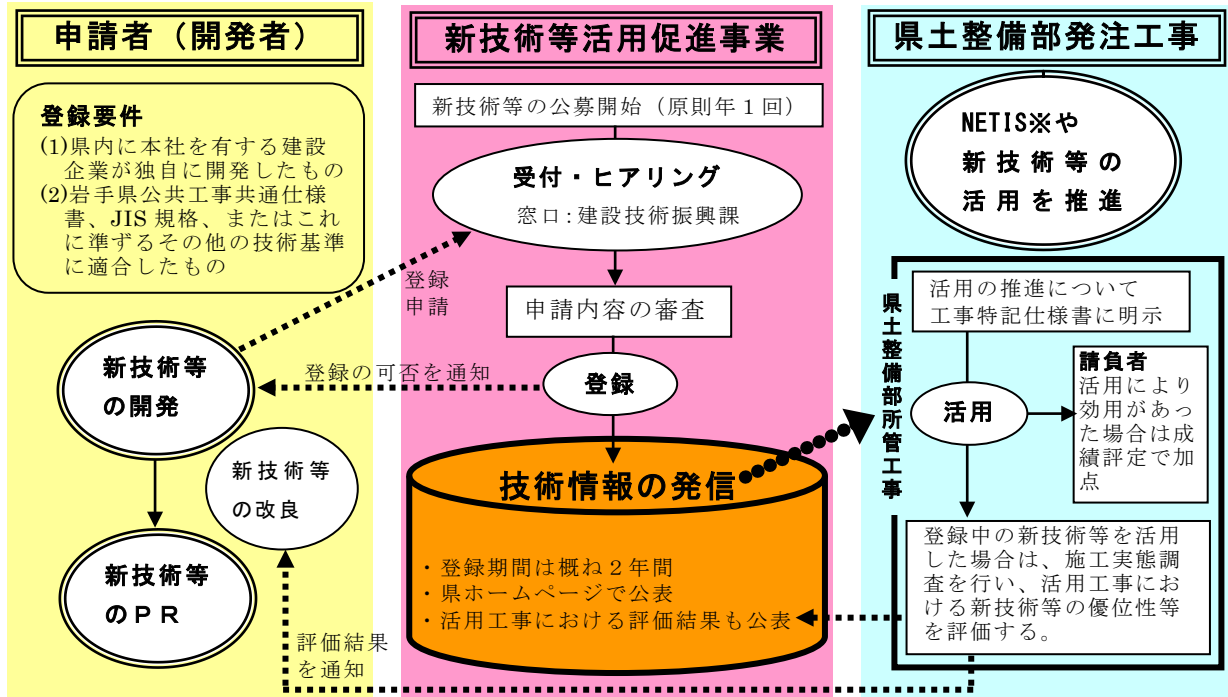
～「岩手県新技術等活用促進事業」により新技術・新工法の活用を促進～

建設技術振興課

県では、県内建設企業の育成及び活性化を図ることを目的に、平成17年度に「岩手県新技術等活用促進事業」を創設し、建設業者から申請のあった新技術等について登録を行い、広く情報提供するとともに、それらの新技術等を活用した工事において、新技術等の優位性等を評価し、その評価結果を公表しています。

今後とも、社会資本を良好に整備、維持管理していく直接の担い手である建設企業の育成支援に努めていきます。

◆「岩手県新技術等活用促進事業」の概要



公共・民間事業における活用機会の拡大

◆ホームページでの紹介 ※NETIS:、新技術に関わる情報の共有及び提供を目的とした新技術情報提供システム
 新技術等の概要については、建設技術振興課のホームページで公開しており、現在、39件を登録しています。

■第4回登録分(H19年10月15日登録)

※詳細については、登録番号をクリックしてご覧下さい(PDFファイル)。

登録番号	申請者	新技術等の名称【概要・特徴】	備考
19-7	鞠アサヒテクノ	すっからか〜ん工法 【地中の揮発性有機化合物、油分、水分等を、真空気化により除去する工法】	
19-8	岩手ハネダコンクリート㈱	植栽擁壁 【擁壁面中に開口部を設け、壁面内部より植栽を可能とした擁壁】	

■第5回登録分(H20年6月18日登録)

※詳細については、登録番号をクリックしてご覧下さい(PDFファイル)。

登録番号	申請者	新技術等の名称【概要・特徴】	備考
20-1	工藤建設㈱	光る工事用看板(写真パネル『PINPIX』の応用) 【水や紫外線に強い写真パネルを利用した太陽電池発電で夜間発光する製品】	
20-2	陶製ケミカル	サンボリーR工法 【防水シートをFRP防水の二重防水で目地からの漏水を防ぐ工法】	
20-3	勝佐賀組	維持修繕管理情報『リレキ』 【QRコードによりコンクリートの施工履歴を容易に確認できる技術】	

【新技術等活用促進事業 応募様式】				※登録番号
新技術等 概要説明資料				17-1
				※登録年月日
				平成20年11月15日登録 平成21年11月15日更新
				※受理番号
				更新-07
1 新技術等の名称	位置情報画像提示システム「位置コミ」			申請年月日
2 分類	新技術	新工法	新製品	平成20年5月8日
3 キーワード	安全・安心	環境	情報化	コスト削減・生産性の向上
4 開発目標	省人化	省力化	経済性の向上	施工精度の向上
5 開発体制	単独	共同(民・民)	共同(民・官)	共同(民・学)
6 担当者	株式会社小田島組			17事業部

◆登録している新技術等の名称

- コンクリート構造物補修関係**：HPグラウト工法、MPグラウト工法、無機質結晶増殖型注入材SIRC、高耐久性強化モルタルSIRC-D3、SIRC-BX工法 Type I、SIRC-BX工法 Type II、サンポリーR工法、SGS（圧力調整式グラウト注入工法）
- 緑化・法面保護工関係**：海泥緑化工法、プレスショット法面緑化工法、抗菌性樹皮繊維緑化工法、有機土壌「エコ養土」、有機土壌「カッセー養土」、植栽擁壁、エコリサイクル緑化工法
- 道路関係**：アスファルト中間処理ガラを固化した再生路盤材、廃発砲スチロール再生改質材、流動化セメントコンクリート舗装工法、らくらくキッズ（特殊簡易フィニッシャ）
- 水道・下水道関係**：パラボラSFRC工法、SFRCコンポジット舗装（マンホール蓋防護）工法
- 特定課題への対応**：位置情報画像掲示板システム「位置コミ」、クロスフロー型風力発電装置、高密度移動式雪氷庫、基礎捨石マウンド転圧均し工法、冬の寒さでも塗装できる水系塗料、木製枠組工法による地下貯水槽、スーパーウェルポイント工法、すっからか〜ん工法、維持修繕管理情報「リレキ」、ダクティル鋳鉄製パネル枠、
- イメージアップ**：光る工事用看板
- その他（施工方法の工夫等）**：ベース用鉄筋スペーサ、壁用スペーサ、岸壁維持修繕用足下げ足場、海洋構造物における砂防目地板の陸上施工方法、橋梁高欄部の塗装ブース及びその設置工法、貫入袋（標準貫入試験用試料納入袋）、杭芯チェック・復元アシストソフト「快速杭芯」

◆新技術等のPR

新技術等を理解していただくため、「出前プレゼン」や「活用事例報告会」を開催し、新技術等の紹介、PRなどを行っています。

「出前プレゼン」「活用事例報告会」は、平成20年度から取り組んでおり、これまで県内13会場で開催しました。

県・市町村の工事担当者や建設企業の方などが参加し、参加者数は合計で約400名に達しています。

民間工事にも共通する課題です！！



工事現場の課題

- ◆コスト削減したい
- ◆同じコストでより品質等の良いものを
- ◆ちょっとした工夫で施工性向上・工期短縮
- ◆従来の工法等では解決できない課題がある

**新工法・新技術
の活用で解決
を！**

「岩手県新技術等活用促進事業」のホームページ

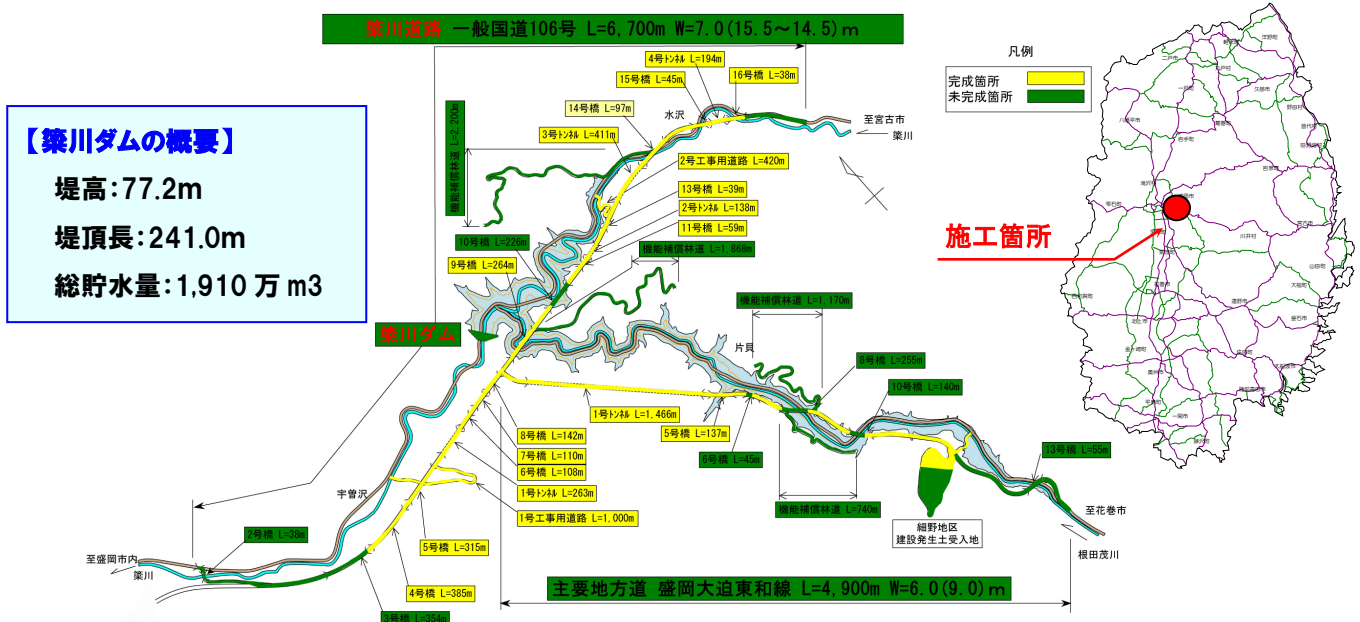
<http://www.pref.iwate.jp/view.rbz?nd=189&of=1&ik=1&pnp=53&pnp=118&pnp=189&cd=2099>

築川ダム付替国道3号橋が連結

～築川ダム付替国道の整備が進んでいます～

盛岡地方振興局土木部 築川ダム建設事務所

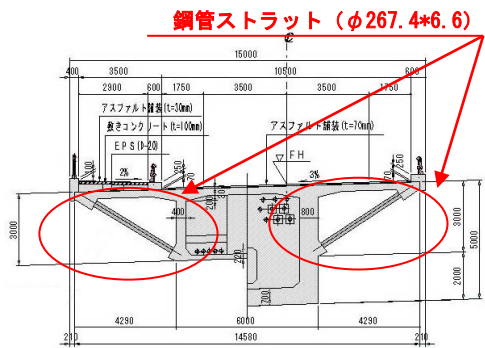
平成21年12月8日、築川ダム付替国道3号橋上部工工事の桁コンクリート最終打設に伴い、連結式を行いました。築川ダム付替国道には14の橋梁がありますが、今回の付替国道3号橋の連結により、主要な橋梁の全てが連結し、供用開始に向けて整備が着々と進んでいます。



築川ダムは、洪水調節及び水源確保等を目的とする多目的ダムで、北上川水系築川における築川総合開発の一環として、盛岡市川目地区に建設する重力式コンクリートダムです。築川ダムの建設に伴い、水没する一般国道106号の付替道路が築川道路です。

築川道路は、「地域高規格道路 宮古盛岡横断道路」の一部を構成するものであり、全体延長約6.7km、主要構造物として橋梁14橋（総延長約2.3km）、トンネル4箇所（総延長約1.0km）を有する道路です。

築川道路には、様々なタイプの橋梁がありますので、主要な橋梁をご紹介します。



■付替国道3号橋(H22年度完成予定)

形式：PC5径間連続鋼ストラット付箱桁橋

橋長：354.0m

特徴：上部工死荷重を低減させることにより、基礎～下部工のスリム化を図っている。また基礎工のスリム化により、基礎掘削範囲を抑制。周辺環境の保全にも効果的。

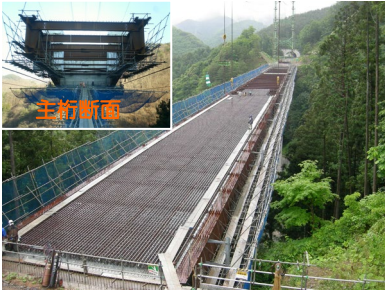


■付替国道9号橋(H18年度完成)

形式：2径間連続PCエクストラロード箱桁橋

橋長：264.0m

特徴：従来桁断面内に配置するPC鋼材を桁外に配置し、大きなプレストレス力を桁に作用させるもの。外観は斜張橋に似ているが、構造的には桁橋に近い。



■付替国道 10 号橋(H22 年度完成予定)

形式：3 径間連続鋼合成 2 主桁桁橋（上下部剛結構造）

橋長：226.0m

特徴：主桁間隔を広げた 2 主桁桁橋の採用により、鋼重・部材数・溶接延長を低減。またグレーチング床版の採用により、施工性が向上し、工期を短縮。

付替国道 3 号橋の連結式は、素晴らしい青空の下、午前 11 時から付替国道 3 号橋の橋上で行い、関係者約 40 名が出席し、最終打設のコンクリート投入を行いました。

付替国道 3 号橋は、桁は連結しましたが、地覆や高欄、舗装などの工事が残っており、引き続き、安全第一で工事を進めていきます。



望月盛岡地方振興局長 挨拶



高橋築川ダム事務所長 コンクリート投入



佐藤盛岡土木部長 万歳三唱！！



付替国道 3 号橋全景



鋼管ストラット部

現場見学随時受付中！
詳細は下記までお問い合わせ下さい！！
TEL:019-652-8821



また、12 月 24 日には、「築川ダム建設に伴う漁業補償調印式」を行いました。調印式では、高橋誠 築川ダム建設事務所長が、調印に至るまでの経過報告と補償契約書の披露を行った後、吉田久孝 盛岡河川漁業協同組合代表理事組合長、望月正彦 盛岡地方振興局長が契約書に署名、押印を行い、その後、立会人である池田克典 盛岡市副市長が署名、押印しました。

調印式終了後、3 人で固い握手が交わされました。



吉田盛岡河川漁協代表理事組合長



望月盛岡地方振興局長



3 人で固い握手！！

建設業の新分野参入事例を紹介します！！

～種山ヶ原の大地で安全安心な食材を生産～

大船渡地方振興局土木部

「風の又三郎」「種山ヶ原の夜」など多くの宮沢賢治作品の舞台となった種山ヶ原において、平成19年度から「種山豆類プロジェクト」が始まりました。

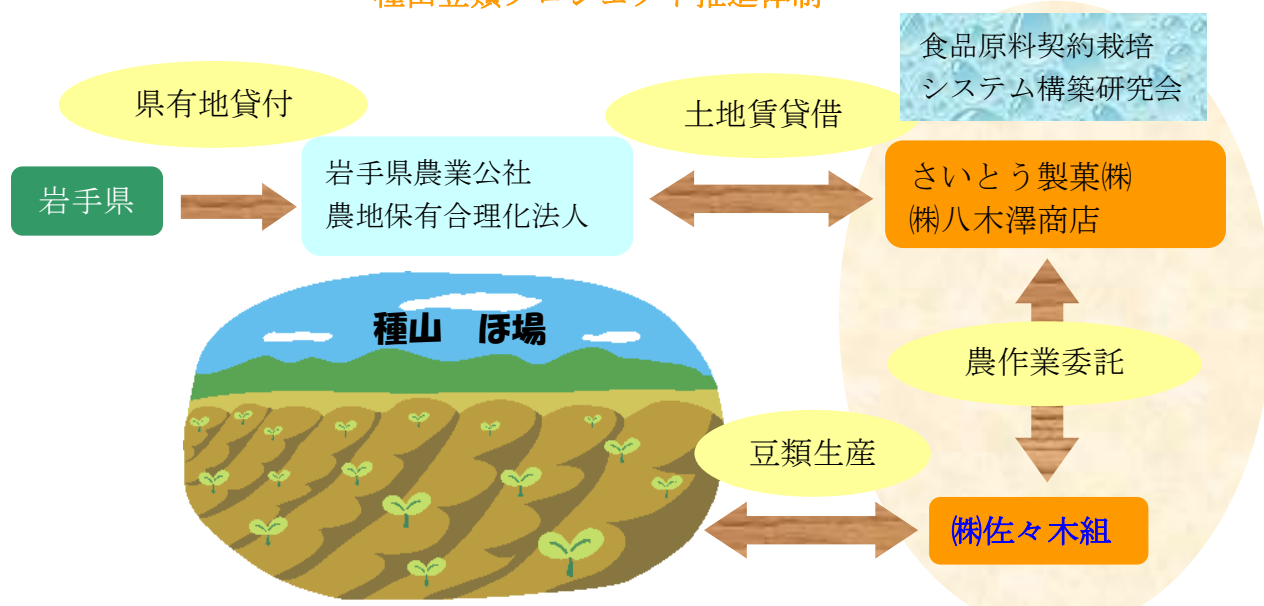
「種山豆類プロジェクト」は、銘菓かもめの玉子を製造するさいとう製菓株式会社、陸前高田市でこだわりの味噌・醤油を製造する株式会社八木澤商店、大船渡市で建設業を営む株式会社佐々木組の3社が「食品原料契約栽培システム構築研究会」を立ち上げ、大船渡地方振興局農林部・大船渡農業改良普及センターの指導の下、2年間の実証栽培を実施してきました。

平成21年度は、研究会が主体となり、白いんげん、大豆、小豆等を栽培しました。収穫した豆類は現在乾燥・調製作業を行っており、最終的に餡や味噌・醤油の原材料として活用される予定です。

☆☆☆期待される効果☆☆☆

- 食品製造業と農業の連携による新たな農業生産モデルの構築（農商工連携、地域産業振興）
- 建設業の労働力活用（建設業新分野参入支援）

種山豆類プロジェクト推進体制



～生育の夏～

炎天下の中の作業は大変ですが、豊作を祈って頑張ります！！



～実りの秋～

大変な作業ですが、収穫の喜びはひとしおです！！



釜石港のジブクレーンが供用開始（釜石市）

～内航フィーダーコンテナ航路開設を目指して～

港湾課

平成21年12月19日、釜石港の公共ふ頭（耐震補強岸壁（-7.5m））で、昨年9月に搬入されたジブクレーンを使った初のコンテナ貨物の積み出しが行われ、野田釜石市長、若林釜石地方振興局長をはじめ関係者が参加して、供用開始式典が開催されました。

今回使用されたジブクレーンは、釜石市の第3セクター釜石港物流振興(株)が北海道釧路市から購入し、点検・整備していたものです。今回の積み出しに合わせて、釜石地方振興局土木部で行っていた岸壁（-7.5m）の補強工事も終わり、初の積み出し作業となりました。今回積み出しを行ったコンテナは、釜石市の(株)及川工務店が岩手県内で発生した廃プラスチックを入れた40フィートコンテナで、6本を中国向けに輸出したものです。

今後とも、内航フィーダーコンテナの定期航路開設に向けて、ポートセールスに取り組むこととしています。

ジブクレーンによるコンテナ荷役の様子



入港船舶
内航フィーダーコンテナ船「いくた」
総トン数：749トン 全長：96.8m
最大積載：250TEU
(40ftコンテナで125本)
(井本商運(株)公式HPより)

供用開始式典の様子



内航フィーダーコンテナ輸送とは？

国内主要港と地方港を結ぶ、外国貿易コンテナの国内2次輸送のこと。世界の各港湾とつながっている京浜地区などの港湾でコンテナを国際航路の船舶に積み替えることで、地方港でも各国との貿易取引が可能になります。フィーダーは幹線に対する支線の意味です。

岩手県 I 援隊運動を展開しています！！

～「希望郷いわて」を目指してみんなでチャレンジ！～

県土整備企画室

県では、平成21年12月に策定した「いわて県民計画」の基本目標「いっしょに育む『希望郷いわて』」の実現を目指し、県民の皆さんや様々な組織と県及び県職員と一緒にクリエイティブに活動する運動として、**岩手県 I 援隊運動**を展開しています。I 援隊運動の実施を通して、「グローバル化時代に相応しい”開かれた”新しいタイプの組織集団に県職員が進化していくことを目指すものです。

運動推進の基本的考え方

- ★『従来の枠組みを超えて、独創力と行動力を発揮し、県民の皆さんと一緒に課題の解決を図る』ことを行動の指針とし、普段の活動を行います。
- ★「いわて県民計画」アクションプランに位置付け、アクションプランの政策項目の実施に当たっては、I 援隊運動の趣旨を踏まえて、その実践に努めます。
- ★I 援隊運動の活動状況や成果は、積極的な情報発信に努め、県民の皆さんとの情報共有を図ります。

具体的な取組方向

「いわて県民計画」の岩手の未来を拓く3つの視点である「ゆたかさ、つながり、ひと」を育むため、次のような取組を促進します。

- ① 人と人、組織を繋ぐネットワークとしての活動や活動に共感する仲間づくりの活動
- ② 県民協働による地域づくりなど、県民に開かれた活動手法の提案とその実践
 - ・ ③ コミュニティ・ソリューションの展開
- ④ 民間感覚を取り入れた資金等経営資源の調達
- ⑤ 向上心・向学心に燃える職員を育成する取組



I 援隊運動のロゴマーク



キャラクター：たぐっちゃん隊長

坂本龍馬のように
独創力と行動力を発揮
して新しい岩手を
切り開いていこう！

運動の対象

I 援隊運動は県職員を対象にした運動ですが、趣旨に賛同する県民の方々などにも具体的な活動に広く参加していただくことで運動が広がることを目指しています。

県土整備部の主な I 援隊運動

取組方向	取組名	概要
① ネットワーカー	美しいまちづくり推進	まち歩きワークショップや修景実験を市民活動団体(NPO、町内会等)が中心となり、専門家、行政と一緒に地域での景観改善に取り組んでいる。電柱等に貼られ、景観を損なう屋外広告物条例違反のはり紙除却をボランティア(はり紙バスターズ)を募って実施している。
② 開かれた集団	地域医療を支える救急搬送ルートの道路改善に向けた取組(H21新規)	地域医療を道路の整備や維持管理の面から支えるため、各消防本部の協力を得ながら、救急搬送ルートの障害箇所等の調査を行った。今後、保健福祉部や医療局、各消防本部等との連携を密に行い、搬送時の患者負担を軽減するため、救急搬送ルートの維持管理や道路改良に取り組む予定。救急搬送に配慮した道路改善の新たな取組である。
③ みんなで解決	住民協働による道路・河川の維持管理	自治会等の住民団体が、県が管理する道路や河川等の維持管理を実施することにより、より地域の実情に合ったきめ細やかな地域づくりを推進している。①道路の草刈や除雪は、県と住民団体の役割分担を決め、連携を図りながら活動を展開。②ボランティア団体による道路や河川、海岸の清掃美化活動については、軍手やゴミ袋の支給などにより支援を実施。
⑥ その他	1.5車線の道路整備	1.5車線の道路整備は比較的交通量の少ない地域において、2車線にこだわらず地域の実情にあった道路の整備を地域の皆様の合意を得て進めるもの。道路整備の構想、計画、実施と整備後の維持管理の各段階において懇談会を開催し、合意形成を図りながら進めていく。全国に先駆け、本県や高知県などが整備開始に取り組んだもの。